

新東商ビル特別見学会に参加して

森林商事株式会社

森林 慎介

先日、東京商工会議所（以下東商）江東支部木材分科会・建設不動産分科会共催の「丸の内二重橋ビル」の見学会に行ってまいりました。この場所は以前「東商ビル」「東京會館ビル」「富士ビルディング」の3棟が建っていましたが、三菱地所・東商・東京會館の3社が共同開発に合意し、2015年11月16日から工事を開始し、2018年10月15日に約3年の歳月をかけて竣工に至りました。

開発計画概要は以下の通りとなります。

- ・所在地 東京都千代田区丸の内三丁目2番3号
- ・主要用途 事務所・会議室・バンケット・店舗・駐車場等
- ・敷地面積 9,935.02 m² (約3,000坪)
- ・延床面積 174,054.18 m² (約52,750坪)
- ・開発手法 都市再生特別地区(丸の内三丁目10地区)
- ・容積率 1,500 %
- ・階数 地下4階、地上30階、塔屋2階
- ・建物高さ 約150m
- ・構造 地上：鉄骨造 地下：鉄骨鉄筋コンクリート造
- ・設計監理 (株)三菱地所設計
日建設計コンストラクション・マネジメント(株)(東京會館専有部)
- ・施工 大成建設(株)
- ・就業人口 約10,000人

当日は東商1階のエントランスに集合後、5階の会議室に移動し、ビルの紹介ビデオを見せてもらう。その後、2班に分かれビルの見学会がスタートとなる。我々の班は、1階のエントランスに行き、東商初代会頭 渋沢栄一氏の銅像前で記念撮影。渋沢氏は1840年現在の埼玉県深谷市に誕生し1931年91歳で亡くなるまでに約500社の設立に関与し、現在も185社(東京ガス・東京海上・王子製紙・東急等)が経営を続けている「日本資本主義の父」と呼ばれている日本を代表する人物である。身長は約153cm。銅像の後ろはメイプルの突板と思われる。次に受付の所に行くと変わったロボットが置いてある。コミュニケーションロボッ



完成した東京商工会議所ビル



初代会頭・渋沢栄一銅像



エントランスにあるコミュニケーションロボット。警備と案内の二役をこなす優れたもの



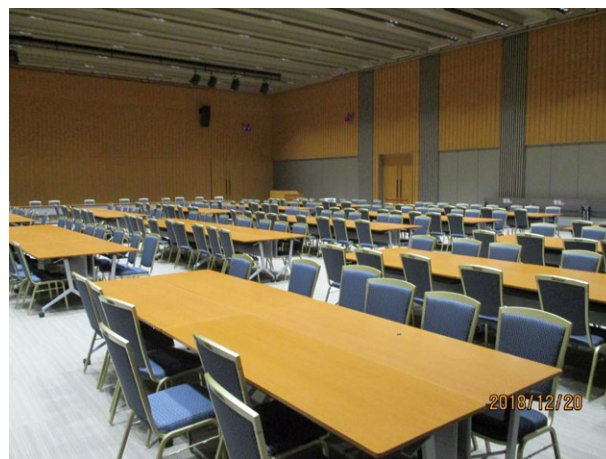
昔のデパートを思い出させる懐かしい匂いがする階段



1階エレベーターホール
旧ビルで使われていた大理石を継承

トといって、警備と案内の2役をこなす優れたものとのことで、ALSOKから購入したそうである。最近ロボットが受付をするホテルもあるが、まさか東商にもロボットが導入されるとは驚きである(隣に受付嬢もいましたが)。1階のエレベーターホールには、旧ビルで使われていた大理石を大事に取りっておいてきれいに磨き上げ、壁面に貼り重厚感をだしている。また階段も真鍮の手摺が取り付けられてあり、昔のデパートを思い出させる懐かしい匂いがする。エレベーターで6階に移動し、事務局のオフィスに到着し内部に潜入する。基本的に固定電話と固定机はなく、毎日異なった席で仕事をしなければならないそうだ。荷物は壁面のロッカーに全て収納し、外出時や帰宅時は机の上にいっさい物を置いてはいけない決まりとなっている。ペーパーレス化にも取り組んでいて、各自にパソコンとスマホを貸与し、

会議でもパソコンを使用しなるべく印刷物を出さないようにしている。コピーを取る場合も社員証をかざしてから行うので、月に何枚コピーしたか記録され紙の無駄使いランキングで自分がどの位置にいるかわかってしまう。次に5階に移動し大ホールを見学する。最大500名を収容でき、壁面から出てくる移動観覧席や300インチスクリーンが備えられていて、講演会や発表会など各種イベントを行うことができる。また、災害発生時などのときは500人分の飲食料3日分が倉庫に備蓄されていて、避難所にもなるそうだ。中小規模の貸会議室も8つあり、会議、セミナー、講演会など行うことができ、弁当の用意やケータリングも手配できるとのことである。開かれた東商を目指しているのがオフィス専用ビルと比べてセキュリティは厳しくないが、先進と伝統を上手く融合したビルだと感じた。今回は東商ビル内しか見学することができなかったが、機会があれば東京會館や三菱地所のテナント内も見てみたいものだ。



貸会議室



出典：東京商工会議所パンフレット